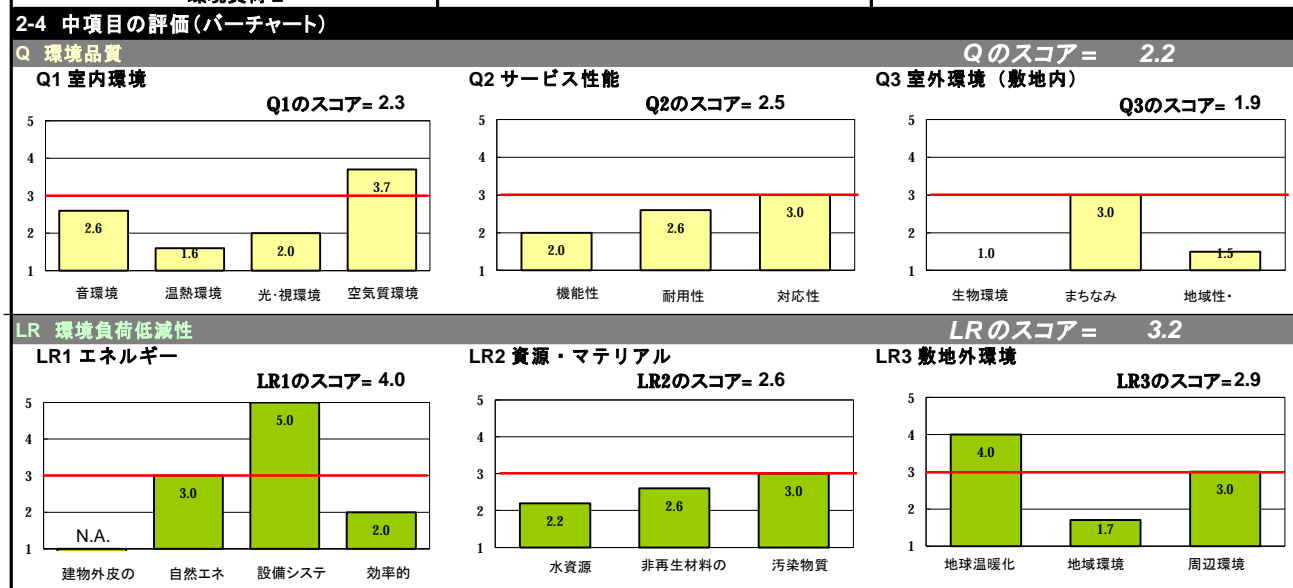
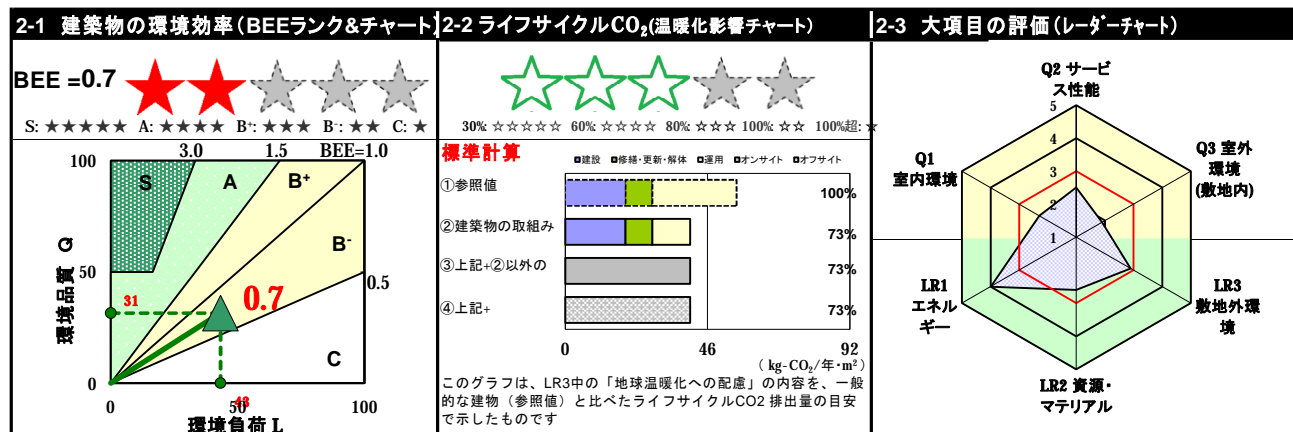


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイキン工業株式会社淀川製作所	階数	地上6F
建設地	大阪府摂津市西一津屋	構造	S造
用途地域	工業地域、第二種中高層住居地域	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2025年10月27日
敷地面積	3,242 m ²	作成者	TPSC 早川容平
建築面積	448 m ²	確認日	
延床面積	2,678 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 建物の要求仕様の精査と現実的で効果的な機能性を有する設計を行うことで環境に配慮した計画とした。		その他 特に無し
Q1 室内環境 内装材についてはJIS・JAS規格F☆☆☆☆の建築材料を全面に採用し、化学汚染物質の拡散が無いよう配慮した。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースとして休憩室を計画した。事務室、休憩室の天井高は2.7mとし、外壁面に窓を設けることで窮屈な空間とならないよう配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 景観条例に基づいた外部仕上げ色を採用することにより、周辺とバランスの取れた計画とした。
LR1 エネルギー LED照明を採用し、モデル建物法にてBELm=0.45を達成した。	LR2 資源・マテリアル 構造体と仕上げ材を分離しやすい組み合わせとし、解体時の分別を考慮した計画とした。	LR3 敷地外環境 広告物照明は行わないなど光害抑制を行い、地域環境に極力影響を与えないよう配慮して計画した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		ダイキン工業株式会社淀川製作所 ReMR樹脂製造設備建設工事 メルト後処理1号・2号建屋							
建設地		大阪府摂津市西一津屋							
用途／区分		工場							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B－	
①	CO2削減							4	
②	みどり・ヒート アイランド対策							1	
③	断熱性能	評価対象外						評価対象外	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外						評価対象外
④	エネルギー消費性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外						評価対象外
								6	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目	評価内容						スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮						4.0	4	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出						1.0	1	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上						2.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善						1.0		
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制								
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化						5.0	5	
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用						3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。						報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入	技術の名称				考慮事項				
特に配慮した事項									